



## 明和町内企業 CSR 連載紹介 河田フェザー株式会社 CSR 推進室長 黒田健氏

〒515-0303 多気郡明和町山大淀 3255  
TEL 0596-55-2431 FAX 0596-55-4156

### 「安心、安全な羽毛を次世代に。」

「うちの会社の社会的使命はずっとこれです。」取材冒頭、CSR 推進室長の黒田さんはこうおっしゃいました。羽毛業界で世界トップシェアの「河田フェザー」。食文化の変化等により羽毛原料が減少していく中、軽くて暖かい羽毛の需要は大幅に増加し、原料の供給に行き詰まりをみせていました。そんなある日、社長の自宅に地元の障害者施設が古新聞の回収のお願いに来たそうです。「羽毛布団やダウンジャケットも同じように回収して再利用するシステムができるはず！」そんな社長のアイデアから **UMOU** プロジェクトをはじめとする羽毛回収システムの全てが始まりました。

### 障がい者との出会いが全てを変えた

社長の特命を受けた黒田さんは、当時の障害者通所授産施設ありんこを初めて訪れた時の事を何度も感慨深そうにお話して下さいます。

「衝撃でしたよ。（応接室の机を指して）如何に自分たちは机の上の物しか見ていなかったか、という事を突き付けられた気がしました。作業所での利用者さんの月収が 2000 円って…。」（2011 年当時）

そんな出会いから始まった「ありんこ」との協働。時にリーマンショックや東日本大震災などの影響から、施設内の作業がなく困っていたありんこに、会社をあげて徹底的に社内の仕事の洗い出しを行い、敷地内の草刈や破魔矢の羽根の選別梱包作業など、羽毛回収以外のお仕事も回してもらいました。繁忙期には事務所の社員が総出で破魔矢の羽根選別を行っていた状況もあり、そんな仕事をありんこへ出すことで業務効率もアップし、正しく WINWIN の関係が築かれていきました。



### 14 枚から始まった羽毛回収の輪。今や年間 6 万枚を超えて…

2011 年、全国で初めて羽毛布団回収イベントをありんこで行って集まった羽毛布団は 14 枚。今や羽毛回収の輪は、羽毛製品を三重県下の社会福祉協議会へ持ち寄っていただくと赤い羽根共同募金に寄付される「UMOU プロジェクト」や、大手アパレルメーカー等が参画し「リサイクル羽毛流通システム」を作る取組である「Green Down Project」等、三重県下はおろか全国に広がりました。その数、年間 6 万枚を超す羽毛製品が三重県の河田フェザー本社へ送られてきます。毎日何百枚と送られてくる羽毛製品を選別解体しているありんこ利用者の皆さんは大忙し。河田フェザーから発注いただく仕事量は 600 万円を超えるまでになり、もはやありんこだけでは選別解体作業が追い付かない状態になってきました。当面の目標を黒田さんに伺うと、「第二第三のありんこを全国各地へ作る事。」そう平然とおっしゃいました。

### 社会的使命を果たす事で SDG s の 5 つの項目を達成

「次世代に安心安全な羽毛製品を受け継いでいく。」その社会的使命のもと構築された羽毛回収システムは、年間〇万トンのゴミ削減にも繋がりました。又、羽毛製品を通じた「赤い羽根共同募金」への寄付額は毎年〇〇万円にも上り、「福祉のまちづくり」の貴重な財源を生み出しています。何より、これまでご紹介したように、障がいを抱える方にとって、「仕事」を通して誇りをもって参画できる機会が新たに創出された事は何より画期的な取り組みであると取材を通して感じました。特に、先にご紹介した「Green Down Project」における取組は、SDG s（誰一人取り残さない社会の実現に向けた、持続可能な開発目標）の 5 つの項目を満たす活動でもあり、全国でも先進事例として取り上げられる活動でもあります。こちらの活動も是非、HP 等をご覧ください。

#### CSR 活動取材させて下さい！

うちの会社の活動を紹介して！地域の為にかかしたいと思っている！そんな企業担当者様、是非ご連絡ご相談下さい！  
担当：山田・西中